

市場代表者協会



丸梅社長 新保 健一郎

昭和二十七年十月十日は東穀の創立の日ですが、戦前の米穀取引所市場立ちの経験があったのは中央食糧事業協組の塚本秀五郎さんぐらいいいかいせんせん

七年に山大商事の杉山重光さんが、市場代表者協会の委員長に就任され、市場代表者の地位向上に尽力されました。

仕手の注文を抱えている場立ち立立会場の主役で、場内を闊歩していました。昔は大きな売買をするお客さんは立会場にみえて、場立ちのうしろから指示を出してたりして、大らかな時代でした。

ハワイアンバンド



朝日ユニバーサル貿易社長 高橋 正光

昭和三十年代後半、大学時代にはハワイアンバンドに熱中、ダンスパーティーなどにひっぱりだこでした。私はミュージシャンだったのです。

そんな男が商品先物業界に飛び込んで、三十五年。地方でチマチマと社業に励みながら、とてつもないことを考えています。

「日本先物委員会」といつたものをつくって、行政が総力を挙げて取り組んでもらいたい。そうならないと、今の考えに繋がっています。

二十年、同サイズの背広



豊商事社長 多々良 實夫

ここ二十年、同じサイズの背広を使っています。身長は年とともに縮んでいますが、体重は六十五、六十キログラムで変わっていませんからです。その秘密が

家は黒黒の柿の木板にあります。「駅から三里」あるから歩いていくわけではなく、医者から「運動しろ」といわれたのがきっかけでした。

鎧橋随想

カラオケの効用



西友商事社長 高 利男

中高年の社員に「発想の転換」を吹き込んでいます。カラオケを例にとれば、いつも決まりきった演歌でお茶をにごすの

村田英雄もいい、三橋美智也もいい、それはそれとして新しい歌を覚えることは、自分の可能性を発見することにつながり、情性に

珍品拝見

備前焼の箱を開ける時

三貴商事社長 村上 久広

村上さんは宴席に出かける時、お好みのぐい呑みをするのが好きだった。日本史の成績はひとに敗けなかつたという。

村上さんが備前焼にのめり込んでいったのは人間国宝、金重陶陽(一八九六―一九六七)の絶品に魅せられた

「備前焼は備前焼の中心の祖といわれている。備前焼は安土・桃山時代にもめつすがめつ眺めながら、



森陶岳作「寒風徳利」

「備前焼はあきることがありません。休みの日、焼物の入った箱を開ける瞬間は胸が高鳴ります」と話す

ること十数回。自慢の珍品は森陶岳作の「寒風徳利」(高さ十一・四センチ、径九・三センチ)だ。先年、森陶岳展(朝日新聞社主催)が全国で巡回開催された時、出品

投稿歓迎します

くじけず生きたい 前者は先物協会役員会議室に、後者は会長応接室に掲げられています。

事務所を飾る二つの色紙

本誌一月号第一面の「私の好きな一文字」は米常商事の安田甫社長が本誌のために特別に揮毫してくれたものです。

一枚は「福」の一文字とともに二つの色紙が編集部に送られてきました。一枚は「生きていてよかったあなたに会えてよかった今を生きて」

証言・戦後先物史

東穀と私(2)

東京穀物商品取引所相談役 石田 朗

をめぐって議論をしたことを覚えておいてください。合板は旗振り役だった大阪の津田産業会長津田良太郎さんらのねぶり強い運動が奏功し、検討会の結果を踏まえ、商取審でもゴ

石田 先物業界と全く無縁のひとになったわけではない。商品取引所制度問題研究会という農水、通産両省に

13年振りの復帰

石田 先物業界と全く無縁のひとになったわけではない。商品取引所制度問題研究会という農水、通産両省に



鈴木 一氏

石田 昭和五十七年三月から金が上場され、新しい風が吹き始めていましたが、先物取引全体について一般の理解が深まるには、少しく時間を要したのです。